

＜冷凍冷蔵庫／冷凍庫に関する実態調査＞

夏本番間近！猛暑対策に活躍する冷凍室

「今、求められるのは冷凍室の大容量化(96.3%)」

買いだめの習慣化(8割以上)、冷凍室活用の多様化で冷凍室のパンパン率は常に約8割

ハイアールジャパンセールス株式会社(本社：大阪市、代表取締役社長：杜 鏡国)は、全国の既婚男女1,000名に対し「冷凍冷蔵庫／冷凍庫に関する実態調査」を実施いたしました。

その結果、買いだめ傾向が進んだことや活用法の多様化により、冷凍室はほぼ埋まっている状況にあることが分かりました。背景には、共働き夫婦の増加や宅配サービスの充実といったライフスタイルの変化が垣間見られます。これらの結果から、冷凍冷蔵庫選びの基準として「冷凍室の大容量化」が欠かせない要素であることが明らかになりました。

夏本番に向け、節電・節約といった猛暑対策として時短レシピや冷たい食品、保冷剤の出番も多く、さらに冷凍室の需用は高まることが予想されますが、多くの家庭の冷凍室はパンパンの状況にあります。各家庭で冷凍室の活用術、利便性を見直すことが、今夏、さらにはこれからの日々を快適に過ごすことにつながるポイントとなるようです。

■進む買いだめ傾向(8割以上)

食料品や日用雑貨の買いだめ頻度について、「よくする」(31.9%)、「たまにする」(50.8%)と、全体で82.7%となり、買いだめが習慣化していることが分かりました。共働き夫婦の増加や充実したネット通販・宅配サービスなどにより、一度に大量買いする傾向が高まってきたことが伺えます。

■多様な活用法により、7割以上が「冷凍室の中がいっぱい」と回答、パンパン率は約8割

こうした買いだめ傾向も影響し、現在使用している冷凍室の容量について「いっぱいだと感じる」(30.9%)、「ややいっぱいだと感じる」(41.8%)人が全体の72.7%となりました。さらに冷凍室内の収納状況は平均78.9%と、大多数の家庭の冷凍室はほぼ埋まっている傾向となりました。

■使用中冷凍冷蔵庫の不満 第1位「冷凍室容量の少なさ」5年以上前の購入者ほど顕著になる これからの冷凍冷蔵庫選びに求められるのは、「大容量冷凍室」

現在使用している冷凍冷蔵庫への不満について、46.8%と約半数の人が「冷凍室の容量の少なさ」を指摘しています。さらに、5年以上前に冷凍冷蔵庫を購入した人ほど冷凍室の容量への不満が高いことも分かりました。また、これから冷凍冷蔵庫を購入する際重視したいポイントとして、1位の「電気代」(48.5%)に次いで2位の「冷凍室の大容量化」(46.1%)があがりました。全体の96.3%という人が「大容量がいい」「やや大容量がいい」と回答。これからの冷凍冷蔵庫選びの新基準として「冷凍室の大容量化」が欠かせない要素となりそうです。

■最も冷凍室がパンパンになるのは8月、 冷凍室活用術による猛暑対策もあり、今、冷凍室の大容量が求められている

冷凍室の収納物について、一般的に入れる肉・魚や野菜といった食材の他に、作り置き惣菜や離乳食、さらには臭い消しのために生ゴミを入れるといった工夫のほか、節電対策として半数以上の方が、保冷剤や氷枕を入れたり、各家庭において様々な用途で冷凍室が活用されていました。また、最も冷凍室がパンパンになる月について、1位8月、2位7月、3位6月と、夏場において冷凍室がいっぱいになる傾向となり、今、まさに冷凍庫の最盛期を迎えようとしています。

※調査ダイジェストの詳細は、次頁以降をご参照ください。

<調査概要>

表題： 「冷凍冷蔵庫／冷凍庫に関する実態調査」
調査主体： ハイアールジャパンセールス株式会社
調査手法： インターネットリサーチ（調査機関：株式会社マクロミル）
調査時期： 2012年6月19日(火)～2012年6月20日(水)
調査対象： 20代以上の既婚男女
* 家庭用冷凍冷蔵庫、冷蔵庫、冷凍庫の所持者に限定（業務用所持者などは除く）
対象者居住地： 全国
調査方法： アンケート調査（インターネット調査による）
回答人数： 1,000人（構成比は下表の通り）

性別	サンプル数	北海道／東北	関東	近畿	中部	中国／四国	九州／沖縄
男性	100	16	17	17	17	17	16
女性	900	150	150	150	150	150	150
全体	1000	166	167	167	167	167	166

※各図の<SA><MA>はそれぞれ以下を表しています。

<SA> 選択肢から1つを選択する回答方式

<MA> 選択肢から複数選択する回答方式

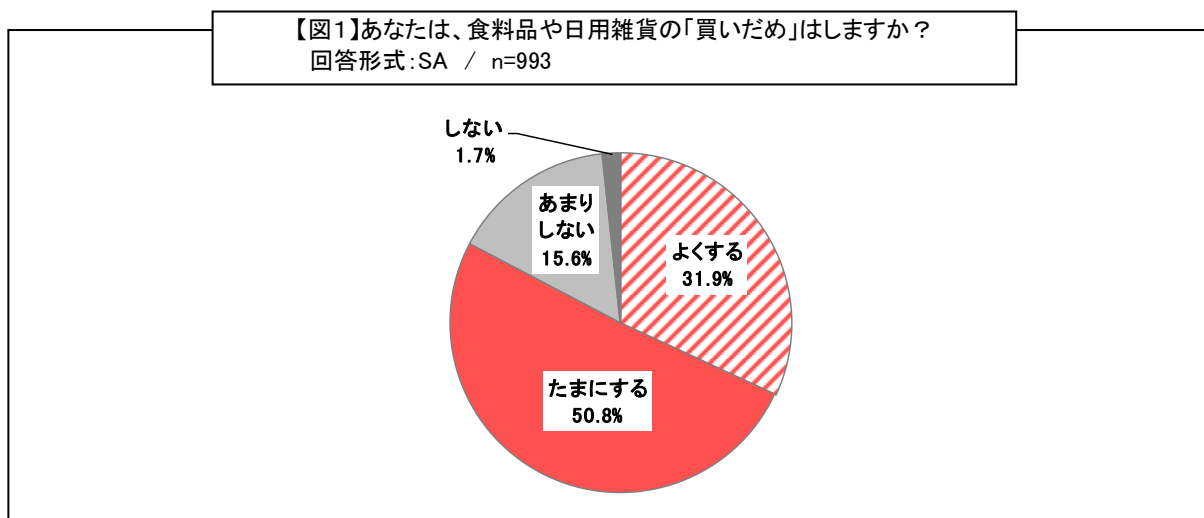
※本文中の%表記は、全て小数点以下を四捨五入した値となります。

※図表の%表記は、全て小数第二位を四捨五入した値となります。

進む買いだめ傾向(8割以上)

**食料品や日用雑貨の買いだめをする人は全体で 82.7%。
ライフスタイルの変化が垣間見える。**

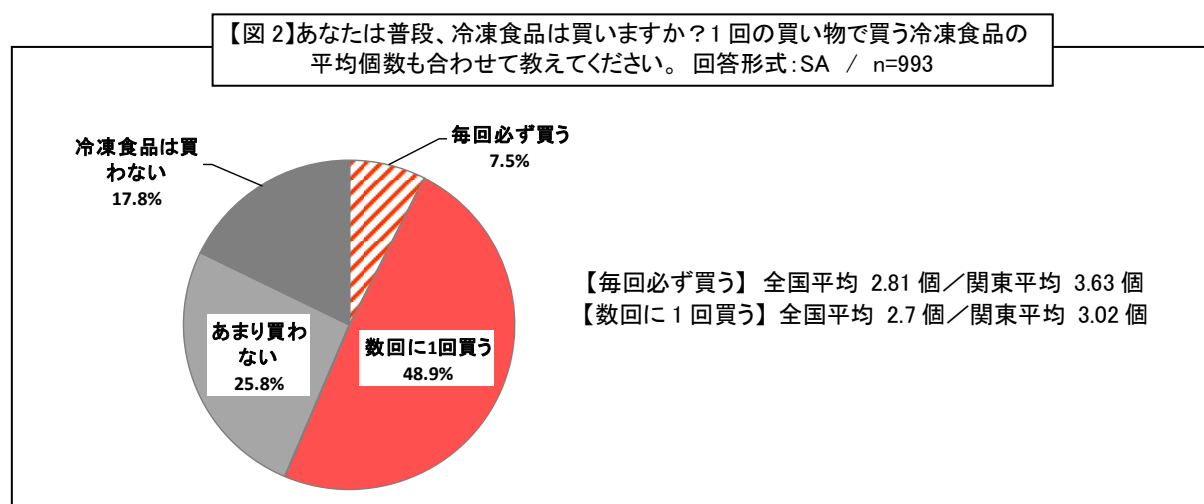
食料品や日用雑貨の「買いだめ」についての設問では、「よくする」(31.9%)、「たまにする」(50.8%)を合わせると、全体で買いだめをしている人が 82.7%います。仕事と家庭を両立している女性が増えているなどといったライフスタイルの変化から、「買いだめ」傾向が高まっていることが伺えます。



冷凍食品の購入頻度

平均購入数は全国で 2.81 個に対し関東は 3.63 個。

冷凍食品の購入頻度と 1 回の買い物における購入数について、「毎回必ず購入する」と回答した人の平均購入数は全国で 2.81 個に対し関東は 3.63 個と、都市部において冷凍食品の購入数が多いことが分かりました。



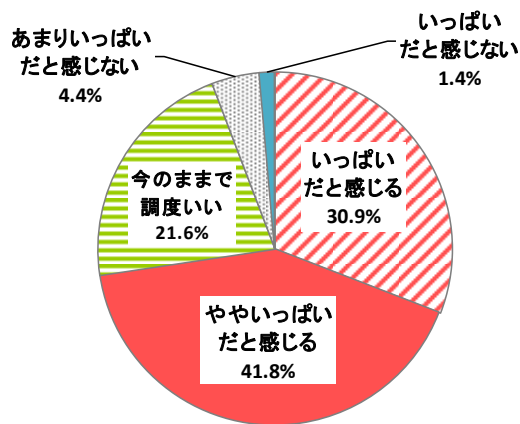
多様な活用法により、7割以上が「冷凍室の中がいっぱい」、パンパン率は約8割

「冷凍室の中がいっぱい」と感じる人が7割以上。

普段から冷凍室の中は、全体平均で約80%埋まっている。

普段の冷凍室の中についての設問では、「いっぱいだと感じる」(30.9%)、「ややいっぱいだと感じる」(41.8%)を合わせると、全体で7割以上(72.7%)がいっぱいであると感じており、「今のままで調度いい」と感じている人は、約2割(21.6%)程度でした。また実際に普段からの冷凍室の埋まり具合について聞いてみると、全体平均で約80%埋まっているという回答が得られました。

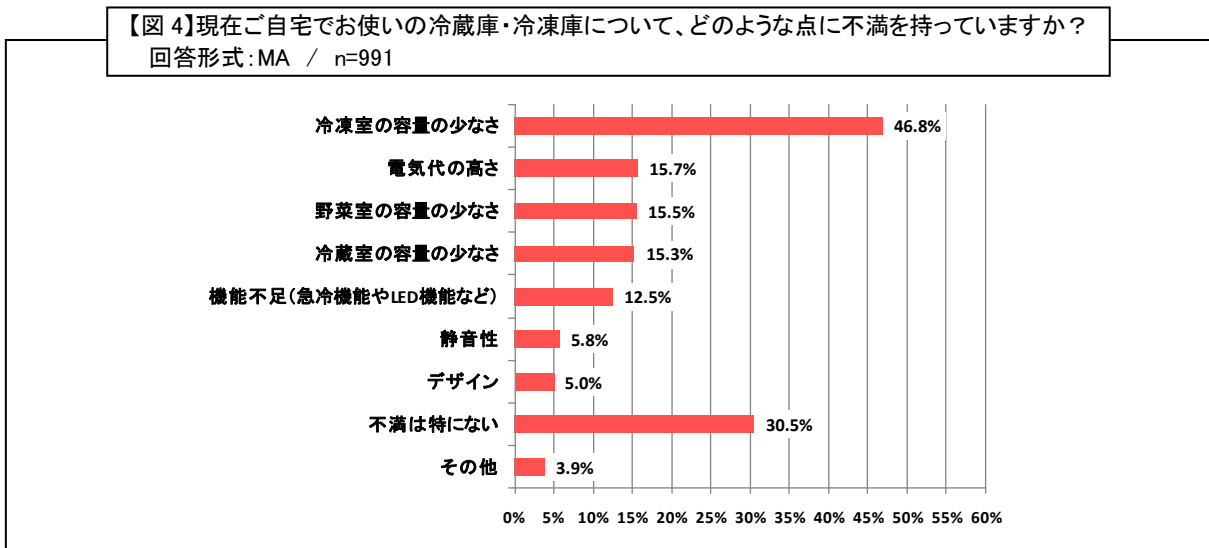
【図3】普段、冷凍室の中はいっぱいだと感じますか？
回答形式:SA / n=995



**冷凍冷蔵庫の不満 第1位「冷凍室容量の少なさ」
5年以上前の購入者ほどその傾向は顕著になる**

**現在使用している冷凍冷蔵庫・冷凍庫への不満について、
46.8%と約半数の人が「冷凍室の容量の少なさ」を指摘。**

現在使用している冷蔵庫・冷凍庫への不満点は、第1位「冷凍室の容量の少なさ」(46.8%)、第2位「電気代の高さ」(15.7%)、第3位「野菜室の容量の少なさ」(15.5%)が上位となりました。また、その他の意見としては、奥のものが目につきにくい、ボトルや調味料を入れるスペースが狭い・少ないなどといった、整理のしづらさやスペースへの不満も見られました。



**冷凍冷蔵庫の不満 第1位「冷凍室容量の少なさ」は、
5年以上前の購入者ほどその傾向は顕著になる。**

購入後、どのくらいたってからどのような点に不満を感じるようになったかについての設問では、5年前から10年前に購入した人は54.7%、11年前から15年以上前に購入した人は50.3%となり、5年以上前に冷凍冷蔵庫を購入した半数以上の人々が、冷凍庫の容量への不満を感じていることが分かりました。

【図7】購入(入手)後、どのくらいたってからどのような点に不満を感じるようになりましたか？
回答形式：MA / n=464 ※冷凍室の容量への不満から抜粋

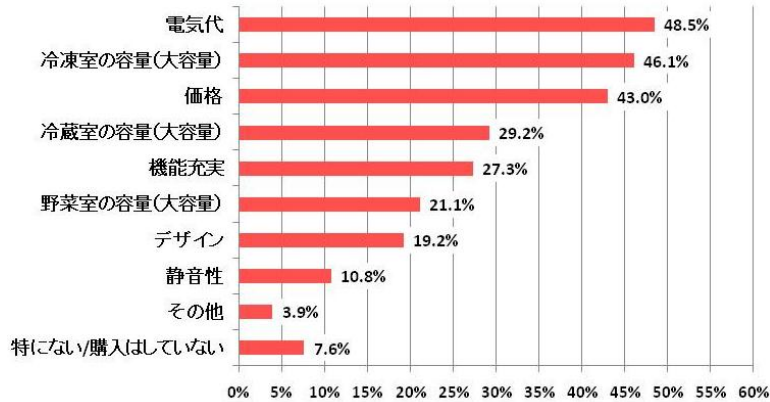
購入年数	冷凍室の容量の少なさ
1年未満～4年前	35.5%
5年前～10年前	54.7%
11年前～15年以上前	50.3%

これからの冷凍冷蔵庫選びに求められるのは、「冷凍室の容量」

これから冷凍冷蔵庫・冷凍庫を購入する際重視したいポイントとして、「機能充実」や「冷蔵室の容量」、「野菜室の容量」よりも「冷凍室の容量」(46.1%)が求められている。

次に購入する際に重視したいポイントについての設問では、第1位「電気代」(48.5%)、第2位「冷凍室の容量(大容量)」(46.1%)、第3位「価格」(43.0%)が上位に挙げられます。「機能充実」(27.3%)や「冷蔵室の容量」(29.2%)、「野菜室の容量」(21.1%)よりも「冷凍室の容量」が早急に求められています。

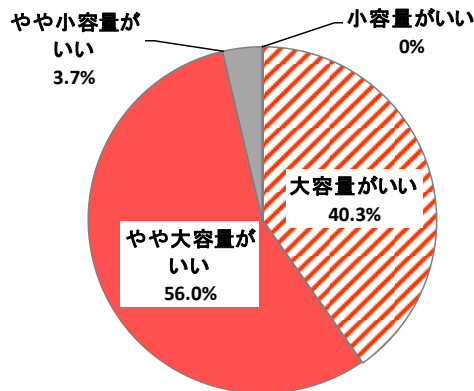
【図5】次に冷凍冷蔵庫・冷凍庫を購入するとしたら、重視したいポイントは何ですか
回答形式:MA / n=1,000



求められる冷凍室の大容量化(96.3%)

前述結果の第2位「冷凍室の容量(大容量化)」について、さらにどのくらいの割合で重視しているかを調べたところ、「大容量がいい」と答えた人が40.3%、「やや大容量がいい」と答えた人が56.0%で、合わせると96.3%の人が大容量に関心を持っていることが伺えます。

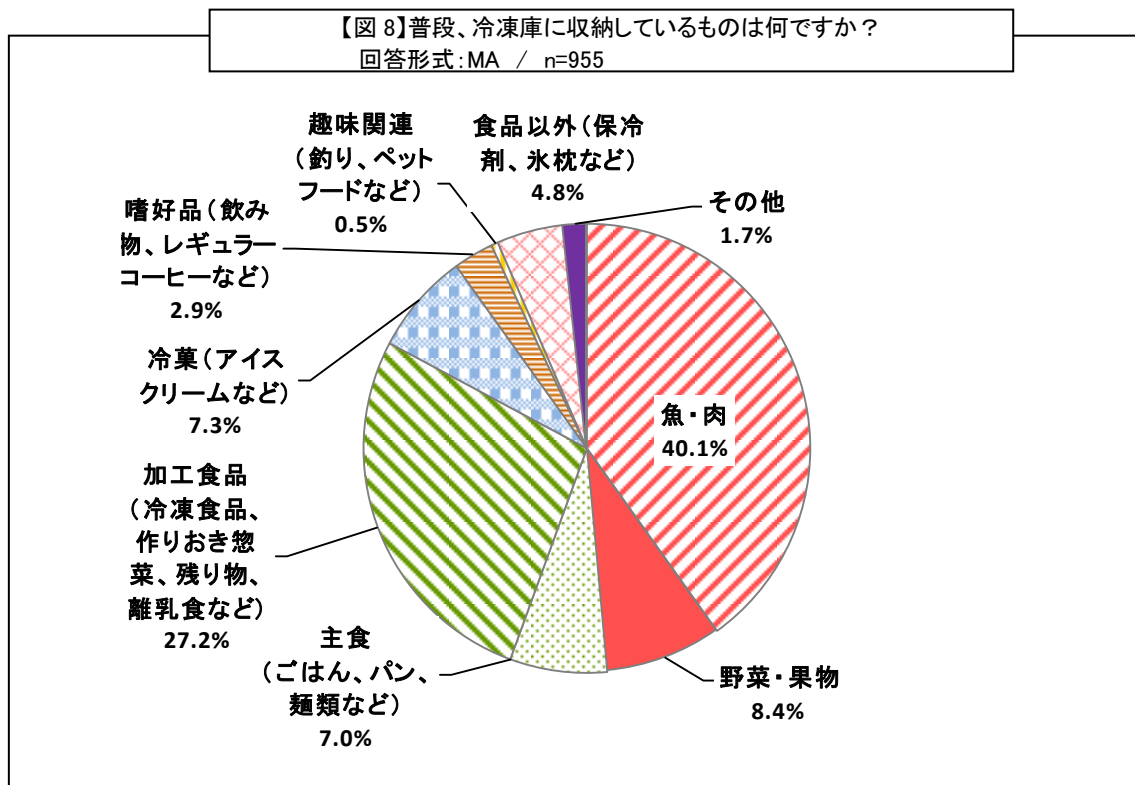
【図6】冷凍室は、大容量の方がいいと思いますか？
回答形式:MA / n=955



**最も冷凍室がパンパンになるのは8月
冷凍室活用術による猛暑対策もあり、今、冷凍室の大容量が求められている**

食べ物だけではない多様化する冷凍室活用術！猛暑対策としての活用も。

冷凍室の収納物について、一般的に入れる肉・魚や野菜といった食材の他に、作り置き惣菜や離乳食、さらには臭い消しのために生ゴミを入れるといった工夫の他、節電対策として保冷剤や氷枕を入れたり、各家庭において様々な用途で冷凍室が活用されていました。

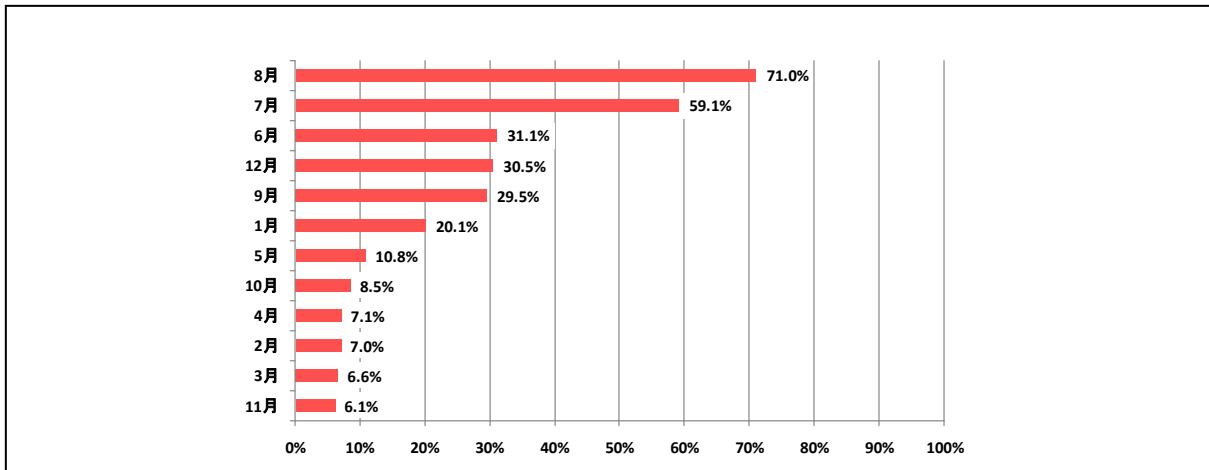


【その他 回答例】

- 食品
 - ・きざみねぎなど薬味に汎用できるもの
 - ・お茶、のり、こんぶといった乾物など（特に九州地区で多く回答）
- 食品以外
 - ・ビールジョッキやグラス、タオル、おしぼりなど夏場を乗りきる対策商品
- その他
 - ・生ゴミの臭い消し

“冷凍室/冷凍庫”がもっともパンパンになる月、1位は8月

冷凍室や冷凍庫が、特に目一杯になる時期についての設問では、第1位「8月」(71.0%)、第2位「7月」(59.1%)、第3位「6月」(31.1%)が上位に挙げられ、夏本番が迫った今、大容量冷凍室が求められる。



ハイアールジャパンセールス株式会社およびハイアール社について:

ハイアールジャパンセールス株式会社は、中国山東省青島市に本社を置くハイアール社製品の日本における販売会社として2002年に設立されました。ハイアール社は、1984年に冷蔵庫メーカーとして事業を開始して以来、徹底した品質とサービスへのこだわりのもと、90年代よりエアコン、洗濯機、小型家電、黒物家電へと事業の幅を広げてきました。世界各国の消費者ニーズや文化に適した製品を一から開発することを強みとし、2011年には3年連続となる白物家電分野で世界シェア第1位※にランクインしています。日本国内で販売するハイアール製品も、デザインや価格、そして日本のユーザーが毎日の生活で本当に使う機能にこだわった「くらしにフィットした実用家電」を開発・提供し、豊かなくらしの新しい価値(ライフスタイル)を提案しています。(※ワールドワイドブランド販売シェア(2011年実績)2011年12月Euromonitor発表)